

# 大震災と教育

## 被災3県からの“声”が、日本の教育に提起するもの

2012年3月17日（土） 明治大学・駿河台キャンパス リバティータワー10階1103教室

13：30受け付け開始 14：00～17：30シンポジウム（3つの報告と議論）

（JRお茶の水駅から徒歩5分 リバティータワー10階にはエレベーターが止まらないので9階か11階で降り、エスカレーターを利用ください。）

3.11の大地震・大津波そして原発過酷事故から1年が過ぎようとしています。被災はあまりに大きく、いまなお地域の産業・労働・生活・医療・福祉・教育などの諸領域に、深刻な影響を与え続けています。

事態は、戦災にも匹敵するあるいはそれを越える現代的側面を含む、日本の教育史上かつてない巨大被災であり、経験です。そこには被災地・被災者の困難の現実に即した支援の課題がいまも重く存在します。と同時に、人間と自然の関係、地域づくりと園・学校の関係、保育者・教師の役割、自治体の役割、地域産業と子ども・学校の関係などの点で、その困難の深さと貴重な体験と実践など、日本の教育のあり方を考え直す多くの課題が提起されています。

日本教育学会は「大震災と教育」というテーマを特別課題研究として設定し、被災の確実な記録と、支援課題と、それが提起する教育への課題を総合的に研究する作業に9つのサブグループを構成して取り組んでいます。その研究活動の一環としてこのたび、被災3県からの“声”を聴き取り、それが日本の教育に提起するものを考えるシンポジウムを以下のように企画しました。これは、教育学会員内・外に公開の形で開催されるものです。皆さまの参加をお待ちしています。

### 【報告】

#### （1）宮城県の教師・学校・地域の声から考えること

上田孝俊さん（武庫川女子大学）

#### （2）岩手県・陸前高田での支援・調査を通して

清水睦美さん（東京理科大学）

#### （3）原発・放射線災害と子ども・学校・地域

境野健児さん（福島大学）

#### <司会・進行>

藤田和也（國學院大学）

#### <日本教育学会・特別課題研究「大震災と教育」の概要>

3.11東日本大震災以降、私ども日本教育学会では、学会としても学会員個人としても、いろんな取り組みをして参りましたが、今年度大会の学会理事会において、「特別課題研究」（2011～2013年）として、<大震災と教育>というテーマにとり組むことを決定しました。この研究の柱は次の3点です。

- （1）「園・学校・自治体・地域は、3.11大震災・巨大津波、原発事故・放射能被災とどう向き合い、いまも向き合っているのか」、その全体像を統計数字・傾向、個々の事例として把握し、できる限り詳細かつ確実なその<記録>を作成する。
  - （2）「被災中での子ども・若者・学校・地域に何が求められているか」、被災直後から今日に続く被災者、とりわけ子ども・若者の苦難と心の傷、避難生活、他地域への転校、間借り開校、避難先開校、除染努力など、いま被災の園・学校・地域はなお何に苦しんでいるのか、困っているのか、何が求められているのかを学んで、可能な支援の姿を追求する。
  - （3）「大震災の被災経験が日本の教育に提起するものを整理し、理論化・教訓化する」、日本の教育史上かつてない巨大被災は、人間と自然、人間と原子力、地域づくりと教育、園・学校建築、保育者・教師・自治体・地域産業の役割などの点で学び研究すべき多くの課題を提起している。それは被災地域だけではない、日本の教育と教育研究全体の課題である。
- それらの追究のために本学会は9つのサブグループ（「幼児教育」、「学校教育」、「地震・津波への学校防災」、「自治体・教育委員会」、「社会教育機関」、「子どものケアと発達支援」、「学習支援・学校支援」、「原発事故・放射能被災と子ども・学校・地域」、「資源・エネルギー・原発問題の教育課題」）を構成し、とり組みを始めております。（研究代表者：藤田英典・日本教育学会会長）